

① この調査の対象者を2200人とすると、プレミアムフライデーに実際に早く帰った人は何人でしょうか。小数点以下を四捨五入とします。

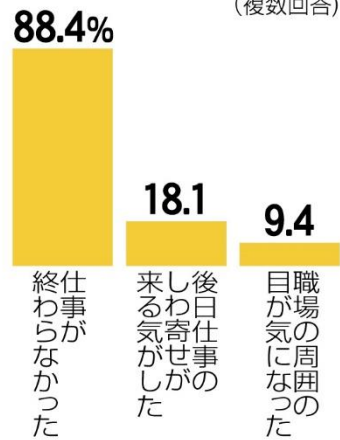
② プレミアムフライデーが実施・奨励された職場でも「早く帰った人」「早く帰るつもりだったが帰れなかった」以外の答えだった人が半分近くいました。どうしたことだったのか推測してみましょう。

③ ①の計算結果を基に、調査対象者のうちプレミアムフライデーに食事に行った人は何人かを計算しましょう。小数点以下を四捨五入とします。

## 帰れぬ「プレ金」

### 民間調査

プレミアムフライデーで早く帰るつもりだったが帰らなかった理由  
(複数回答)



月末の金曜日に仕事を早く切り上げる「プレミアムフライデー(プレ金)」が初めて実施された先月24日に、職場でプレ金の実施されたり、奨励されたりした

人は計10・5%で、実際に早く帰った人は3・7%だった。首都圏在住の働く男女を対象とした民間調査で3日分かった。

実施・奨励された職場

## 「仕事終わらず」

で、早く帰った人は37・9%。「早く帰るつもりだったが帰れなかった」という人は16・3%いた。帰れなかった理由(複数回答)として「仕事が終わらなかった」(88・4%)が最多で、「後日仕事のしわ寄せが来る気がした」(18・1%)、「職場の周囲の目が気になった」(9・4%)が続いた。

調査会社「インテージ」(東京)が埼玉、千葉、東

0人未満は2・4%と、職場規模が大きいほど高かった。

企業での実施率は従業員千人以上で5・8%、10

で、早く帰った人は37・9%。インターネットで尋ねた。プレ金は消費拡大を狙って政府や経済界が推進している。実際に帰った人の退社後の行動で最も多かったのは「自宅で過ごした」(41%)、「食事に行った」(32・1%)が続いた。

京、神奈川県1都3県の20